

# 株式会社テレビ東京

## COMPANY PROFILE

会社名	株式会社テレビ東京
開局	1964年4月12日
本社	東京都港区虎ノ門4-3-12
代表	代表取締役会長 菅谷定彦、代表取締役社長 島田昌幸
売上高	連結 1216億4500万円、単体 1101億8400万円（2008年3月現在）
従業員数	連結 1304名、単体 681名（2008年3月31日現在）
事業	放送法によるテレビジョン放送事業、放送番組の制作・販売、ライツ事業、文化事業、その他放送に関する一切の事業
URL	<a href="http://www.tv-tokyo.co.jp/">http://www.tv-tokyo.co.jp/</a>



Category  
業種ソリューション

Solution  
コンテンツ管理  
ソリューション

Product  
TX1

## Innovation Report

### XMLデータベースによる番組情報システムで 多メディア時代に対応

地上デジタル放送で7チャンネルへ。  
生まれ変わるテレビ東京の新たなビジネスを、  
東芝ソリューションの「TX1」がサポートする。

### 開局以来 **45年分**

の番組情報を瞬時に検索でき、全社的なナレッジ共有を可能にする。  
番組情報基盤システムが、明日のビジネスを切り拓いていく。

## 導入背景

### あらたな時代への布石を打つ

独創的な番組づくりで情報を発信しているテレビ東京は、2009年に迎える開局45周年に向け、そして2011年7月の地上放送の完全デジタル化というテレビの新時代への移行に動き出していた。「あらたに始まるデジタル放送時代に失敗を恐れず、従来のやり方や常識にとらわれない『挑戦』と『改革』で邁進していきます。そのためには、多くの視聴者に愛され、多くの広告主に信頼される番組の開発が課題です。企画の段階からマルチユースを念頭に置き、すべての番組でライツ事業展開することを視野に入れた番組制作を現場に浸透させていきます」と代表取締役社長の島田昌幸氏は言う。

テレビ局のコントロールタワーである編成局編成部副部長（兼経営戦略局メディア戦略部）の門司玲子氏も「これからのテレビ局は、番組を制作して放送するだけでは成り立ちません。番組情報を資産と捉え二次利用などに活用し、従来とは異なるさまざまな関連分野での収益体制を創出することが必要です」と話す。同社のシステム戦略を司るシステム開発室次長（兼技術開発部長）の鈴木敏昭氏も「今後の多様なメディア展開の準備をするために、これまでの番組に関わる情報を一元管理し、有効活用できる番組情報の基盤整備が必要だった」と、新たな番組情報システムの構築に着手した経緯を語る。

代表取締役社長  
島田昌幸 様





## 番組情報の一元管理で 魅力ある番組づくり

番組情報システムの開発には、もう1つの理由があった。「番組に関わる情報は多種にわたり、営放システム<sup>※1</sup>をはじめ、ラテ（新聞などのラジオ・テレビ欄用の情報）、ライブラリー、視聴率、番組宣伝、番組販売などの個別システムによって管理され、必要な情報を探すのに効率的でなかった」と鈴木氏が言うように、番組情報システムの開発に至った目的には、こうした現状の課題解決も含まれていた。

また、「デジタル放送の開始と共に始まったEPGサービス<sup>※2</sup>や、ホームページでの番組情報の充実化、番組宣伝業務の効率化など、番組情報の有効活用と管理方法を改善する必要性に迫られていました」と編成局番組宣伝部副参事の渡邊聖子氏は言う。こうして番組情報システムの構築に向け、準備が進められた。

- ※1 営放システム／放送する番組を管理する編成システム、コマーシャルの契約や進行を管理する営業システムなどで構成されている、テレビ局の基幹システムの総称。
- ※2 EPGサービス／Electric Program Guide。8日分の番組表を放送波とともに送出し、テレビ画面で表示するサービス。
- ※3 XMLデータベース／文書や画像などの非定型データを記述するマークアップ言語のXMLを使ったデータベース。
- ※4 J/Meta／放送番組などの映像コンテンツの流通に必要とされる標準メタデータ体系。



システム開発室 次長(兼技術開発部長)  
鈴木敏昭 様



編成局 番組宣伝部  
副参事  
渡邊聖子 様



システム開発室 システム部  
主事  
五十嵐 基仁 様

## ■ 選定ポイント

### データ連携に強く、柔軟なXMLに着目

開発にあたって要望を集約したところ、社内から出た意見は、個別に管理されていた番組情報を共有できる環境にしたいというものだった。「番組情報は個人のものではなく、社全体のもの。会社の情報を個人のPCに埋没させてしまうのではなく、みんなのものにしたかった」と渡邊氏は語る。プロジェクトを立ち上げ社内の意見をまとめ、2006年より開発を行うメーカーの選定に入った。

最も目を引いたのが東芝ソリューションの提案したXMLデータベース<sup>※3</sup>「TX1」だった。「評価した点は、データの保存形式としてJ/Meta<sup>※4</sup>に準拠できること、システム間の連携に強く、スムーズなデータ移行が図れること、データ項目の追加変更が容易にでき、開発時の要求に柔軟に対応できること、この3つでした」とシステム開発室システム部主事の五十嵐基仁氏は振り返る。「繰り返し項目を定義するとき、複数の表から成るリレーショナルデータベースとは異なり、1つの定義体でデータベース設計が可能なXMLデータベースは、運用面でも魅力的でした」（五十嵐氏）。こうして、XMLデータベースによるシステムの構築が、同社のシステム開発運用を担う株式会社テレビ東京システム（以下、systx）と東芝ソリューションによって始まった。

## ■ 導入経緯

### 新システムの評価

「TX1」の導入は2007年3月から始まった。3社の共同作業で、仕様決定、設計・構築、既存のシステムとの連携・データ移行を行い、今年（2008年）の3月に一次システム、8月に二次システム、10月に本格稼働と段階的な立ち上げを実施した。この番組情報システムは、すでに稼働しているいくつかのシステムから情報を吸い上げ、統合管理する役割を担う。「XMLデータベースを使うのは初めてで不安だったが、さまざまなシステムを連携させる





番組テープを保管するライブラリー

株式会社テレビ東京システム  
業務部  
宮永貴裕 様編成局 編成部 副部長  
(兼 経営戦略局 メディア戦略部)  
門司玲子 様

ツールが提供されていたので、データの吸い出しなどの作業が容易にできた」と評するのはsystx業務部の宮永貴裕氏。続けて「Webアプリケーションの実装、オープンソースの導入などの要望も受け入れられ、プラットフォームからデータベース、アプリケーションまで自社でこなせる実力やプロジェクトの工程管理は、とても優れていたと思います」と五十嵐氏が言うように、テレビ局でのXMLデータベースによるシステム構築に、東芝ソリューションの技術力は大きく貢献した。その結果、「開局以来、約40万件の情報から数秒で検索結果が出せるようになり、さらに番組名での検索を支援するサジェスト機能によって、『アド街』という略称から『出沒!アド街ック天国』という正式名称で探すことができます。また、テープの貸出情報をはじめ各システムで変更した情報は、ほぼリアルタイムで連携するXMLデータベースに反映されます。これらは、使い易いシステムへのイメージアップにつながっています」(宮永氏)。

## 放送とICT

同社はこれまでも先取的なICT※5の採用に積極的だった。1996年には地上デジタル放送によるデータ放送の先駆けとも言える、アナログのテレビ電波と電話回線による双方向サービス「ITビジョン」を導入した(2003年12月サービス終了)。また、インターネットを利用したBtoBの経済情報の動画配信、携帯サイトでの番組表リアルタイム更新、データ放送やワンセグでの番組連動サービスなど、ICTを活用した例は多い。放送のデジタル化で放送と通信の連携が加速する中、放送におけるICTの利用はますます進む。XMLもさまざまな業界で注目され、文書処理からeコマースにいたるまでネットワーク上のデータ処理のあらゆる面で活用されており、XMLを直接扱える「TX1」は、二次利用を前提として情報を管理し、かつ業務を効率化したいという同社の考えに一致していた。

### ■ 将来展望

## 視聴者のニーズに応えるため、挑戦は続く

一方、システムを運用する段階で見えてきた課題もあった。「ユーザの利

便性を向上させることは重要ですが、多種にわたる番組情報へのアクセス権限管理も必要です。また、現場からは、便利にはなったが入力負担が増えたという声もあがっています」と門司氏は指摘する。「肝心なのはユーザが意識を高めること。番組は放送したら終わりではなく、二次利用や新たな番組づくりに役立つという相乗効果が見えれば、モチベーションも上がってくると思います」(門司氏)と対策に動き出している。さらに「現場の入力者へは、講習会を開いて理解を求めています。業務の負担を増やすことなく、情報をデータベースに蓄積していく方法を模索していきたい」(鈴木氏)、と次のステージに向けた準備も進む。

視聴者のニーズは多様化し、かつてのように番組制作と放送のことを考えているだけでは、テレビ局は時代に取り遅れかねない。新システムによるテレビ番組情報の管理の効率化は、今後ますます多様化すると予想される視聴者の要望に応えるためにテレビ東京が打った重要な布石のひとつだ。東芝ソリューションもその担い手として、さらに試みを続けていくだろう。

※5 ICT／Information and Communication Technology。情報・通信に関する技術の総称「IT」に、共有・共同性を加えた表現。

## Solution Focus

### XMLデータベース「TX1」

テ ライト級の大容量データでも高速検索が可能なXMLデータベースとして、2005年4月にリリース。TX1は、XMLデータから構造を自動的に抽出して索引化する、構造自動抽出技術「スキーマアナライザ」と、抽出した構造情報と語彙情報を統計的に分析して最適な問い合わせプランを生成する、問い合わせ最適化技術「クエリオプティマイザ」を搭載し、大容量データでも高速に検索することができる。さらに、全文検索、スコアリング、同義語検索などの多彩な検索機能や、RDB、Notes DBなどのデータをXML変換して登録するデータ連携機能など、エンタープライズクラスのシステムに適する特長を備えている。

●お問い合わせ先

東芝ソリューション株式会社

経営企画部 広報担当

住所：〒105-6691 東京都港区芝浦1-1-1(東芝ビルディング)

電話：03-3457-4112 MAIL：PR@toshiba-sol.co.jp URL：http://www.toshiba-sol.co.jp/jirei/

東芝ソリューション株式会社

